

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6092231号
(P6092231)

(45) 発行日 平成29年3月8日 (2017.3.8)

(24) 登録日 平成29年2月17日 (2017.2.17)

(51) Int. Cl.

F I

G 0 6 K 19/077 (2006.01)

G 0 6 K 19/077 1 8 0

G 0 6 K 19/077 1 8 8

請求項の数 4 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2014-537651 (P2014-537651)
 (86) (22) 出願日 平成24年10月29日 (2012.10.29)
 (65) 公表番号 特表2014-532912 (P2014-532912A)
 (43) 公表日 平成26年12月8日 (2014.12.8)
 (86) 国際出願番号 PCT/EP2012/071369
 (87) 国際公開番号 W02013/064454
 (87) 国際公開日 平成25年5月10日 (2013.5.10)
 審査請求日 平成27年10月8日 (2015.10.8)
 (31) 優先権主張番号 11306406.7
 (32) 優先日 平成23年10月31日 (2011.10.31)
 (33) 優先権主張国 欧州特許庁 (EP)

(73) 特許権者 504326572
 ジエマルト・エス・アー
 フランス国、92120・ムドン、リュ・
 ドゥ・ラ・ベレリー・6
 (74) 代理人 110001173
 特許業務法人川口国際特許事務所
 (72) 発明者 フロジェ, アレキシ
 フランス国、92190・ムドン、リュ・
 ドゥ・ラ・ベルリ、6、ジエマルト・エス
 ・アー、インテレクチュアル・プロパティ
 ・デパートメント

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 切り込み入りスマートカード

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第1のカード形式のカード本体(2)および電子モジュール(4)を有するスマートカードにして、カード本体は電子モジュール(4)を取り囲む切り込み線(6)を備え、第2のカード形式(3)を定義し、前記切り込み線(6)はカード本体の厚さより少ない残りの物体の厚さを備えるスマートカードであって、残りの物体の厚さは切り込み線(6)の第1の部分全体で第1の厚さ(9)、切り込み線の第2の部分全体で少なくとも第1の厚さ(9)より少ない第2の厚さ(10)、および少なくとも1つの残りの厚さの変動ゾーン(11、17)を備え、前記厚さの変動ゾーンが第1の厚さから第2の厚さまでに及ぶ漸進的な厚さの変動ゾーン(11、17)であることを特徴とする、スマートカード。

10

【請求項 2】

第1の部分および第2の部分は枢動軸(X、Y、D1、D2、およびD3)で分離され、枢動軸は、第2のカード形式を2つの実質的に同等の部分に実質的に分離する線である、請求項1に記載のカード。

【請求項 3】

残りの厚さがカード本体の厚さに関して片寄っている、請求項1に記載のカード。

【請求項 4】

前記カード本体が成形によって製造される、請求項1に記載のカード。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【 0 0 0 1 】

本発明は、切り込み入りスマートカード、具体的には、切り込みの形状に関する。

【 背景技術 】

【 0 0 0 2 】

UICC (Universal Integrated Circuit Card : ユニバーサルICカード) と呼ばれる、SIM (Subscriber Identity Module : 加入者識別モジュール) カードは、欧州電気通信標準化機構の標準規格 ETSI TS 102 221 によって定義されているスマートカードである。ETSI では、3 つの SIM カード形式が定義されている。第 1 の形式は ETSI により、ID - 1 UICC 形式として識別され、当該形式は「クレジットカード」形式とよく呼ばれており、さらに標準規格 ISO 7816 - 1 でも定義されている。第 2 の形式は、ETSI により Plug - in UICC 形式として識別され、25 mm × 15 mm のカードサイズを有し、今日最も普及している形式で、第 2 世代の形式または 2 FF 形式とも呼ばれている。第 3 の形式は、ETSI により Mini UICC 形式として識別され、15 mm × 12 mm のカードサイズを有し、最近導入された形式で、第 3 世代の形式または 3 FF 形式とも呼ばれている。

10

【 0 0 0 3 】

スマートカードのメーカーは、その中に、Plug - in UICC および Mini - UICC サイズのカード本体形式が配置され、互いに入れ子にされており、切り込みゾーンで分離されている ID - 1 UICC 形式でカード本体を製造してきた。切り込みゾーンは、カード本体間で分離する切り込み線により達成することができ、それは、タブまたはいわゆる周囲の切り込みにより互いに連結されている。

20

【 0 0 0 4 】

分離する切り込み線は、カードをともに都合よく保持することができると同時に、タブを順々に折り取ることで容易に分離することができるのでよく普及している。しかし、この技術には、2 FF と 3 FF 形式の間で使用される場合、切り込み線のために 1 つの欠点がある。それはなぜならば、一部のコネクタはスライドすることによってカードを受け、切り込み線で詰まってしまう非常に薄い接触パッドを有しているので、コネクタを破損してしまい、電話が使用不能になってしまうからである。

【 0 0 0 5 】

周囲の切り込みは、カード本体の周囲全体の厚さを減らすことによって作製され、カードの厚さより薄い残りの厚さがそのまま残される。カードの厚さは 800 μm のため、そのような切り込みには数百 μm の残りの厚が残る。このタイプの切り込みは、2 FF 形式と 3 FF 形式の間の分離する切り込み線により上述の問題を改善する。しかし、周囲の切り込みには、切り込みによって残された残りの物体の厚さが大き過ぎる場合には、取り外すのが困難になるか、残りの厚さが少な過ぎる場合には、意図せずに分離される傾向があるかのいずれかの欠点がある。それに加えて、高い製造効率を確保するために、カードは射出成形手法に適合するように作製される必要がある。

30

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

40

【 0 0 0 6 】

本発明が目的とするのは、上述の問題を改善するための解決策を提供することである。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 7 】

第 1 のカード形式のカード本体および電子モジュールを伴うスマートカードでは、カード本体は第 2 のカード形式を定義する電子モジュールを取り囲む切り込み線を備え、切り込み線の物体の残りの厚さはカード本体の厚さより少ないものである。本発明は、切り込み線の第 1 の部分での第 1 の厚さ、切り込み線の第 2 の部分での第 1 の厚さより少ない少なくとも 1 つの第 2 の厚さ、および少なくとも 1 つの残りの厚さの変動ゾーンを備える残りの物体の厚さによって特徴付けられる。前記厚さの変動ゾーンは、第 1 の厚さから第 2

50

の厚さへ漸進的に厚さが変わるゾーンである。

【 0 0 0 8 】

第 1 の厚さの使用によって、第 1 の部分でカードを保持し、第 2 の形式のカードの意図しない分離を防止することができる。第 2 の、より少ない厚さを使用することによって、取り外しを開始するために、分離が容易な部分を有することが可能になる。徐々に厚さが変動するゾーンを使用することによって、金型の製作および取り外し中の漸進的な力の増大をより容易にすることができる。

【 0 0 0 9 】

優先的に、第 1 の部分および第 2 の部分は枢動軸で分離され、実質的に、第 2 のカード本体形式を実質的に 2 つの同等の部分に分離する軸である。枢動軸によって、取り外しが開始できるゾーンの境界が定められる。

10

【 0 0 1 0 】

残りの厚さは、非対称の形状とすることができる。残りの厚さは、カード本体の厚さに関して片寄ったものとすることができる。

【 0 0 1 1 】

本発明は、添付図面を参照する以下の説明によって、より良く理解され、他の詳細および利点も明らかになるであろう。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】本発明を具体化する第 1 のスマートカード形式の図である。

20

【図 2】本発明を具体化する第 2 のスマートカード形式の図である。

【図 3】本発明のより良い理解のための詳細の図である。

【図 4】本発明のより良い理解のための詳細の図である。

【図 5】切り込み線を通して進む平面に沿った断面を示す図である。

【図 6】切り込み線を通して進む平面に沿った断面を示す図である。

【図 7】切り込み線を通して進む平面に沿った断面を示す図である。

【図 8】切り込み線に垂直な平面に沿った断面を示す図である。

【図 9】切り込み線に垂直な平面に沿った断面を示す図である。

【図 10】代替の実施形態の図である。

【図 11】代替の実施形態の図である。

30

【図 12】代替の実施形態の図である。

【図 13】代替の実施形態の図である。

【図 14】代替の実施形態の図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 3 】

図 1 は、2 F F 形式の第 2 のカード本体 2 および 3 F F 形式第 3 のカード本体 3 をサポートする、クレジットカード形式の第 1 のカード本体 1 を伴うスマートカードを表している。電子モジュール 4 が第 3 のカード本体上に搭載されている。電子モジュール 4 は、集積回路および 6 または 8 つのコンタクトパッドをサポートするコネクタを備える従来のモジュールである。第 1、第 2、および第 3 の本体は、破断ゾーン 6 および 8 によって境界が定められている。破断ゾーンによってさらに、異なるカード本体が定義され、破断ゾーンは電子モジュールが最先端技術により知られている仕方で、互いに無関係と見なされる 3 つのカード本体上に配置されるように置かれる。

40

【 0 0 1 4 】

第 1 のカード本体 1 は、第 1 の破断ゾーン 8 によって第 2 のカード本体 2 から分離される。この破断ゾーンは、例えば 3 つのタブ 5 および 7 を伴う、分離する切り込み線から構成され、タブ 5 の方がより小さいので容易に破断され、タブ 7 の破断を開始する際に枢動させ、そのタブ 7 の破断までそれを行うことができる。第 2 のカード本体 2 は、第 2 の破断ゾーン 6 によって第 3 のカード本体 3 から分離される。第 2 の破断ゾーンは本発明に従って作製され、以下で詳述される。

50

【 0 0 1 5 】

図 1 で表されているカードは、I D - 1 形式で製造され販売されている。しかし、S I Mカードはさらに、図 2 で表されているように、2 F F 形式でも直接製造されて販売されている。その場合、カードは、第 2 の破断ゾーン 6 によって分離される第 3 のカード本体 3 をサポートする第 2 のカード本体 2 からのみ構成されている。本発明は基本的に、この第 2 の破断ゾーン 6 に関するものなので、以下の書面では、カード本体 1 および第 1 の破断ゾーン 8 が明らかに存在する場合でも、これら 2 つの要素には言及されていない。本発明はさらに、厳密には不必要な場合でも、第 1 の破断ゾーン 8 向けにも使用されることができる。

【 0 0 1 6 】

図 3 において、破断ゾーン 6 は、これから参照する A、B、C、D、および E と命名された 5 つの辺を備える切り込み線である。図 4 には、第 3 のカード本体の表面を実質的に 2 つの同等の部分に実質的に分離する 5 つの線がある。線 X および Y は 3 F F 形式の中線で、第 3 のカード本体の真ん中を通過し、前記本体のエッジに平行である。線 D 1、D 2、および D 3 は、実質的に対頂点を通り抜ける直線で、実質的に同じ面積の 2 つの部分を実質的に定義する。そのような状況を考慮して、実質的に同等とは、10% の許容範囲を含み同等を意味することができ、重要な機能は線でカードが有効面のある 2 つの部分に分割されることである。

【 0 0 1 7 】

本発明の破断ゾーン 6 は、残りの物体が、例えば 200 μm の大きい厚さと呼ばれる第 1 の厚さ 9 および例えば 120 μm の少ない厚さと呼ばれる第 2 の厚さ 10 からなる、切り込み線から構成される。図 5 の断面で図示されている第 1 の厚さ 9 により、適切なカードの保持が確保される。図 6 で図示されている第 2 の厚さ 10 によって、切り込みはより容易に分離することができる。線 X、Y、D 1、D 2、または D 3 のいずれかが、線の一方の側で第 1 の厚さ、およびもう一方の側で第 2 の厚さを伴う、枢動軸として使用されることが可能なことは利点となる。

【 0 0 1 8 】

例えば、線 Y が枢動軸と見なされる場合、辺 A で第 1 の厚さおよび辺 C および D で第 2 の厚さを有することが可能である。辺 B および E は最初に、第 1 の厚さをサポートし、次に移行ゾーンによって分離された第 2 の厚さをサポートする。第 3 のカード本体を押すユーザーは、辺 C および D を非常に容易に破断する。ユーザーが本当に第 2 と第 3 のカード本体を分離したいと思う場合、第 3 のカード本体を押し続ける必要があり、すでに分離されている辺 C および D は次に、辺 B および E、そして最も強い辺 A の破断を開始するものとして機能することができる。カードの一部が分離された場合、取り外す力は、切り取りが切り込み全体ではなく、第 2 の厚さの切り込み線に沿って徐々に行われるにつれ、減らされることができるとに留意されたい。

【 0 0 1 9 】

第 3 のカード本体に加えられる圧力に慎重さが欠ける場合、割譲された辺 C および D はユーザーに、カードを取り外してしまうリスクがあることを示す。幸い、より強い辺 A、B、および E が第 2 のカード本体 2 の中で第 3 のカード本体 3 を維持する。

【 0 0 2 0 】

したがって、不要な取り外しを防止できる切り込み線が作製され、同時に、第 2 および第 3 のカード本体を容易に分離することも可能である。

【 0 0 2 1 】

線 D 1 が枢動軸とされる場合、厚さの変化は、一方で辺 B および C、ならびにもう一方で辺 A および E にまたがることになる。

【 0 0 2 2 】

カードを成形するために、漸進的な移行ゾーンを有して金型の除去を改善することが望ましい。漸進的な移行ゾーン 11 は図 7 に表されている。厚さが漸進的に変化することにより、第 3 のカード本体が解放される際に必要とされる切り取る力も徐々に増大するとい

10

20

30

40

50

う利点も提供し、その結果、第3のカード本体の取り外された部分によってもたらされるレバーアームも増大する。当該の漸進的な変化は、辺の長さ全体にわたり使用されることも、例えば5 mmなど、辺の一部にのみ使用されることもできる。

【0023】

第1および第2の厚さ9および10は取り囲まれた表面に応じて変えることができ、したがって、第1の厚さは例えば、100 μm と300 μm の間で変えることができ、第2の厚さは例えば、30 μm と230 μm の間で変えることができることに留意する必要がある。これらの厚さはさらに、使用される材料に応じて変えられることができる。通常、第1の厚さと第2の厚さ間には、70 μm から150 μm の範囲の違いがある必要がある。

10

【0024】

切り込みの形状に関しては、図8と図9を参照すると、そこでは、2つのタイプの形状が示されている。図8では、カードの各側で対称的な切り込み線13および14を伴う、いわゆるハーフV形状を表している。表面上でのハーフVの開口部は切り込み線の深さと比例しており、同時に、当該切り込み線の深さよりも非常に狭いものである。

【0025】

図9では、切り込み線がV切り込み15および16で作製され、当該切り込みの開口部はハーフV切り込みよりやや広いが、非常に限られたものでもある。V開口部によって、さらにより良い金型の除去を可能にすることができる。

【0026】

20

選択された形状に関係なく、表面上の開口部は、8°から45°の範囲となる場合のある、VまたはハーフVの開口部の角度、および侵入深さによって異なる。表面上の開口部を300 μm に限定することは間違いなく可能である。そのような開口幅を使うと、カードが2FF形式で使用される場合にリーダーのコンタクトパッドがノッチに突き刺さるリスクが遠くなる。

【0027】

実施形態に関して、当該切り込みは成形によって達成されることができる。金型は、本発明の切り込みの形状を考慮に入れて製造される必要があり、成形は知られている技術を使用して通常どおり行われる。当然、開口部のタイプの選択は、より良い金型の除去を可能にするために、金型のために選択された材料に応じて異なる。

30

【0028】

当業者であれば、本発明の2つの厚さを使用して多くの代替形態が可能であることを理解するであろう。特に、示されているすべての線の使用が可能であり、さらに他の線も、第1の厚さのゾーンと第2の厚さのゾーンの境界を定める枢動軸として使用されることもできる。

【0029】

他の代替形態も想定されることができる。例えば、対称的なノッチが使用されないこともできる。高さの変更がない成形用金型の費用がより安い場合には、非対称的な切り込み形状が使用されることができる。したがって、第1および第2の厚さ9および10は、図10および図11で表されているように片寄ったものとしてすることができる。単一の成形金型で、厚さの変動に対応することができる。そのためさらに、漸進的な変化17が一方の側にのみ作製され、もう一方側はレベルを変化させない。

40

【0030】

例えば、コンタクトの側など、限定された一定の開口部を伴う切り込み14または16を一方側にのみ備えるため、図13と図14で示しているように、非対称的な切り込み13から16を有するようにすることも可能である。そして、残りの厚さは、カード本体の厚さに関して片寄る。それによってさらに、コンタクトパッドを引っかけるリスクを限定化することができる。

【図 1】

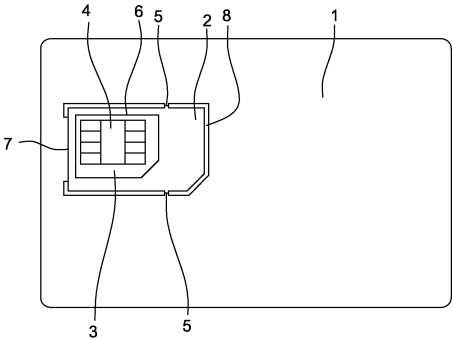


Fig. 1

【図 2】

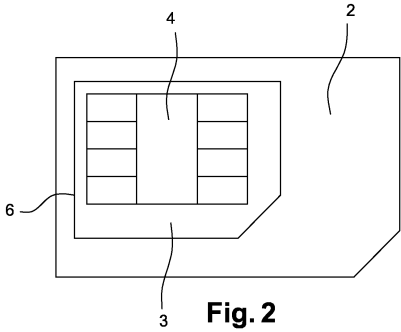


Fig. 2

【図 3】

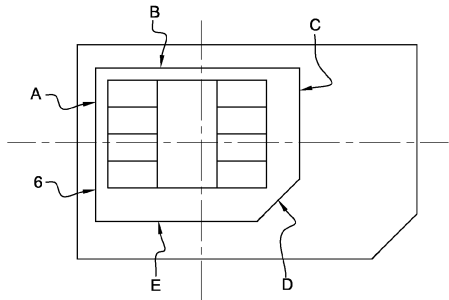


Fig. 3

【図 4】

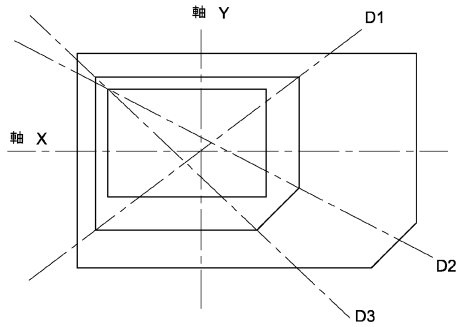


Fig. 4

【図 5】

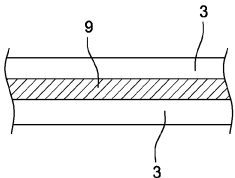


Fig. 5

【図 9】

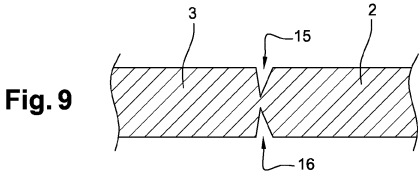


Fig. 9

【図 6】

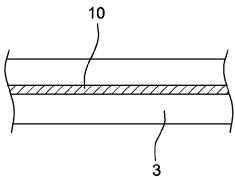


Fig. 6

【図 10】

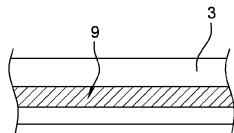


Fig. 10

【図 7】

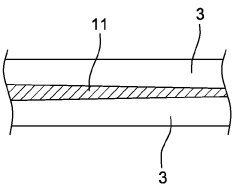


Fig. 7

【図 11】

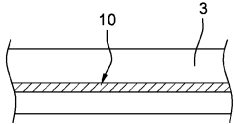


Fig. 11

【図 8】

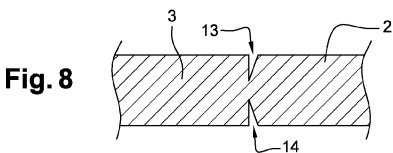


Fig. 8

【図 12】

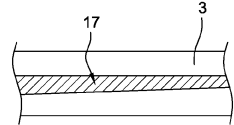
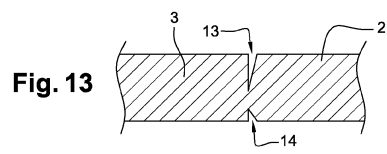
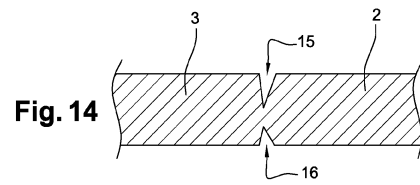


Fig. 12

【図 13】



【図 14】



フロントページの続き

(72)発明者 ルヌアール, ジェレミー

フランス国、9 2 1 9 0・ムドン、リュ・ドゥ・ラ・ベルリ、6、ジェマルト・エス・アー、イン
テレクチュアル・プロパティ・デパートメント

(72)発明者 コノ, ジョルジュ

フランス国、9 2 1 9 0・ムドン、リュ・ドゥ・ラ・ベルリ、6、ジェマルト・エス・アー、イン
テレクチュアル・プロパティ・デパートメント

審査官 甲斐 哲雄

(56)参考文献 特開2011-013851(JP, A)

特開2002-366910(JP, A)

特開2006-318233(JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G06K 19/00-19/18